

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション(自校の使命)】 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン(自校の将来像)】 児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。
----------	-----------------	----------------------	--

c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月		2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	学校関係者評価			
					h 達成値	h 達成値						評価			
												イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	○主体的な学びにつながる授業の実施 ・児童の課題意識を生み出す発問構成の工夫 ・ドリルタイムの設定	【各種学力調査】 ①単元末テスト(算数)の正答率 85% ②全国学力・学習状況調査の正答率、全国平均以上 100% ③NRT(学力テスト)の正答率、全国平均以上 100%  【児童アンケート】 ①「算数の授業が楽しい」85%	100%	90%	84%	98%	B	【各種学力調査】 ①知識・技能 88.4% (対目標値 104%) ②思考・表現・判断 83.5% (対目標値 98%)  【児童アンケート】 ①79% (対目標値 93%)  ○単元末テストについては、知識・技能において、目標値を超えることができた。 ○思考・表現・判断においても、前期と比較し、平均値が向上した。  ▲学年間の平均点のばらつきが解消されないままであった。 ▲「算数の授業が楽しい」と思えるような授業作りの取組に引き続き取り組む必要がある。	○基礎学力の定着に向けて、ユニバーサルデザインの授業づくりを通して、児童のつまづきを想定した「分かる・楽しい」授業づくりの工夫を行う。 ○授業内容、家庭学習とリンクさせながら、ドリルタイム、ICT(ミライシード等)を活用した反復学習を通して、基礎学力の定着の徹底を図る。 ○学年の総復習が行えるよう、「検定問題」を作成し、児童が当該学年の学習内容の定着ができたか振り返ることができるようにする。(今年度内に作成) ○授業中に自分の考えを適切に表現させる場の設定や、ペア・グループワークの意図的な設定を通して、思考力・表現力の向上を図る。	2			
			○学習規律の徹底(4月中に達成) ・チャイムの順守 ・学習環境を整備(机の上、筆箱) ・返事の定着(名前を呼ばれたら「はい」)	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」 →③「名前を呼ばれたら返事をしている」	90% ↓ 95%	92%	93%	98%	B	【児童アンケート】 ①94.9% (対目標値 99%) ②90.4% (対目標値 95%) ③94.1% (対目標値 99%)  ○学習規律の定着に年間を通して取り組み、定着させることができた。 ▲机上整理に引き続き取り組む必要がある。	○学習規律に関する重点取組項目及び期間を設定し、全校で統一した指導を行うことで、来年度学級や担任が変わっても、同一の学習規律で授業に参加し、学習に参加できるようにする。	2			
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣身に付けさせる。	完全不登校の根絶	○不登校の未然防止 ・年に2回Q-Uを実施し、学級経営に生かす ・全職員による児童実態の連携実施 ・関係機関との協働的な連携実施 ○多様な児童が安心して通える学校づくり ・SRの効果的な活用の推進	①「学級生活満足群」に属する児童の割合の上昇。 「学級生活不満足群」や「要支援群」に属する児童の割合の減少。(1回目と2回目を比較して) ②ジェンダーについて職員の研修を行い、体制作りを進める。 ③不登校児童、昨年度以下	100%	89%	95%	95%	B	①学級生活満足群 56%→67% 学級生活不満足群8%→9% 要支援群3%→1% ②未実施 ③昨年度不登校児童8名(1月末) 今年度不登校児童7名(1月末) 100% ○昨年度から引き続き不登校の児童(学校に登校できない)が3名いる。教室に位置付くことが困難な不登校児童4名は、SRを活用することで登校することができている。 ○関係機関との連携を実施し、全職員に周知、共有できている。	○構成的グループエンカウンターを計画的に(月に1回)実施し、共感的な人間関係の育成を図っていく。  ○1月に予定してジェンダーについての研修が延期となったため、3月に実施する。(SC講師)  ○不登校の減少に向けて、SRや相談室等を活用するとともに、電話連絡や定期的な家庭訪問により、学校とのつながりを継続する。  ○生徒指導主事を中心に、関係機関と連携した内容を今後ともタイムリーに全職員に周知、共有していく。	2			・不登校の未然防止や挨拶・言葉づかいの指導により、達成度が10月期から2月期にかけて向上している。 コロナ禍により、児童の欠席に係る意識のハードルが下がっている中、不登校児童数が昨年度より減少している点は大きい評価できる。  ・自分の場所がクラスにあることが一番だと思う。そのためにも、学級活動や係活動を難しいですが取り入れ、活躍できる場を作ることが必要かと思う。 挨拶は近所の子ども達がよくしてくれている。
			○小中スタンダード(SDNあいさつ、言葉遣い)の定着 ・児童会、6年学級代表中心によるあいさつ運動実施 ・相手に応じた丁寧な言葉遣いの定着	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「SDN(先に誰にでも何度でも)のあいさつができていますか。」 ②「『です』、『ます』をつけて、ていねいに話していますか。」	85%	82%	83%	97%	B	①84%(保護者73%,児童86%,教員93%) ②83%(保護者71%,児童85%,教員93%) ○校内において教職員にあいさつする児童が増えた。 ○職員室への出入りの仕方は全体的に定着してきた。 ○言葉遣いについて、保護者評価が63%から71%に上昇した。校外での児童の様子も変容してきていることが分かる。 ▲あいさつや言葉遣いについて、課題のある児童が少なからずいる。	○児童会役員によるあいさつ運動を継続するとともに、校内でのあいさつを児童に呼びかけ、今後も「SDNあいさつ」の定着を目指す。  ○場面に応じた適切な言葉遣いができるよう、学級でソーシャルスキルトレーニングを毎学期1回ずつ実施する。また様々な生活場面において、ていねいな言葉づかいを継続して指導する。	2			
健やかな体	体力を高め、食に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	○運動能力の向上 ・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 ・4月と10月の50m走計測で向上率確認 ・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発	○4月と10月の50m走の結果 ①50m走の県及び全国平均値以上 70%以上	70%	48%	48%	68%	C	①48% ○外遊びや縄跳び運動は、体育や休憩時間を通して行うことができている。 ▲走力に関する運動能力の向上は見られなかった。 ▲運動に慣れ親しむ意欲面の向上を目指す取り組みが必要である。	○運動能力向上に向けて、運動が苦手な児童も進んで活動できるよう、運動意識の向上を目指す。体ほくしや体つくりの運動を各単元の予備運動として取り入れ、指導方法を教職員で共有する。	2			・運動能力の向上に係る取組は、感染対策による様々な制限から困難さがあつたと思われる。中学校でも部活動の中止や週休日の外出自粛などがあり、「おもいっきり体を動かす」場面や経験が不足しているが、健闘していると感じる。
			○食に対する意識の向上 ・朝食習慣や基本的な生活習慣の確立 ・授業や各種便りを活用した啓発	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「朝食を食べていますか。」肯定的評価 90%以上 ②「早寝ができていますか。」肯定的評価 75%以上	100%	86%	87%	87%	B	①94% ②79% ○早寝早起きの肯定的評価の数値が向上した。 ▲朝食摂取や早寝早起きが定着不十分な児童が多く、家庭での生活習慣に課題が見られる。また、課題のある家庭も固定化されている。	○朝食摂取ができていない児童の家庭と連携を図り、朝食摂取の啓発を行う。長期休業明けに実態把握を家庭連携を行う。  ○早寝早起きについても、各教科活動や保健指導、保護者便り等を活用して、早寝の重要性を指導し、早寝早起きの啓発を行う。	2			・短距離走のタイムアップを指標とするなら、それに合わせた講師による教室の定期的な開催が必要かと思う。  ・朝食については、家庭の協力なしには難しく課題である。
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	働き方改革の推進	○時間外勤務月45時間以内を完全実施 ・月間勤務時間合計の確認、助言 ・行事、事務作業の計画、精選 ・教材の共有化	【超過勤務 月45時間以内】 ①在校時間一覧表による超過勤務時間	100%	67%	81%	81%	B	10月～1月までの平均時間外勤務45h以内 81% ○月1回の一斉安全点検、長期休業中の環境美化作業、授業や評価の進捗状況の確認、定期的な学年会の開催等、全職員の共通認識のもと職務が遂行できた。 ○限られた時間を有効に活用していこうという風土ができた。	○重点月への取組の徹底(2月)  ○成績処理時間や事務時間等を設定し、業務を集中して行うことができる環境作りを今後も行っていく。	2			・教育現場での「働き方改革」については、「子どものため」と言った教職員の意識や不祥事等の未然防止の取組等により推進の困難さがある。その中でも、時間外勤務時間を減少させ、質の高い教育を提供し続けることで、地域や家庭の願いに答えようとしている。
			○地域に信頼される学校づくり ・年間計画及び、時期に応じた服務研修実施 ・毎学期末に保護者・児童アンケート実施	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通ってよかったと思いませんか。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ②「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」 【教職員アンケートの肯定的評価】 ③「現在、生き甲斐や行き甲斐を感じる事ができている。」	90%	85%	89%	99%	B	①90% ②96% ③82% ○ICT機器の操作方法に関する研修やICT支援員からの指導を通して、作成したICT教材の共有、アンケート集計など、様々な場面でICTを活用できるようになったことが業務の効率化につながった。この効率化が、授業作りの時間につながり、児童の授業への満足感、保護者の安心感、教師の生き甲斐に少しずつ反映されてきていると考える。 ○服務研修は計画的に実行できた。 ▲今年度は新型コロナウイルスの影響で学校行事を実施できなかった。来年度は、学校行事の計画や準備、指導の時間も確保しながら、授業や評価に関する教材研究の時間を今年度と同様に確保することが、今後の課題である。	○成績処理タイムの設定、Te-Compassの掲示板の活用、一斉安全点検の実施、ICTを活用した教材作り、すぐるでの情報共有など、業務の効率化を継続する。さらなる効率化に向けて、意見を出し合い、検討することで、互いに協働できる時間を生み出す。  ○地域に信頼される学校にしていきたいために、二度と不祥事を起こさない教育環境をつくる。	2			・授業時数の減は、時間確保には有効だと思う。引き続き取り組んでほしい。  ・保護者の評価はすごく高く、それだけで丁寧な取組、かかわりがあることが分かる。「その日のうちに」を合言葉に、引き続き頑張ってほしい。

本年度の重点目標については◎印で示す  
【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成) <100  
C:60≦(もう少し) <80 D:(できていない) <60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。